

会員各位

朝晩少しずつ肌寒く感じるようになりました。2学期が始まって慌ただしい毎日かと思いますが、十分な睡眠をとり、体調管理には気を付けましょう。また、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋など、いろいろな楽しみを見つけて過ごせたらいいですね。それでは、今回の「佐事研だより」をお届けします。

- 
- 平成 27 年度 共通テーマ 「各地区の支援室紹介」
佐賀市、小城市、多久市 （各地区 1 名）
 - フリーテーマ
武雄地区・杵島地区 「支援室だよりの紹介」
藤津・鹿島地区 「コミュニティ・スクール活動紹介」



共通テーマ「各支援室の紹介」

佐賀市

鍋島学校運営支援室副室長 久原 勇一（鍋島中学校 事務主任）

佐賀市鍋島学校運営支援室は、小学校 2 校、中学校 1 校の合計 3 校で構成されています。支援室内の学級数、児童生徒数、教職員数は下記のとおりです。

学校名	学級数	児童生徒数	教職員数
鍋島小学校	3 0	8 5 5	5 0
開成小学校	2 1	5 3 6	3 2
鍋島中学校	2 1	6 6 1	4 8
合 計	7 2	2, 0 5 2	1 3 0

支援室内の学校数は 3 校と少ないですが、1 校あたりの児童生徒数、教職員数は比較的多くなっています。また、事務職員は事務長、事務主任、主査、副主査、主事（各 1 名）の計 5 名で支援室を運営しています。私は、昨年度から鍋島中学校で勤務し、同時に鍋島学校運営支援室の副室長でもあったのですが、今年度より職名が事務主任となり、その名称以上に様々な面で責任の重さを感じています。

皆さんご存知のように、佐賀県版グランドデザインでは「事務主任は事務長の補佐を務め共同実施組織内の調整を行い、事務長の指導が組織内に円滑に行き渡るよう務める『管理運営補佐職員』」と定義されています。事務長が描くビジョン達成のため支援室内の円滑な業務遂行、いきいきとしたやりがいのある環境づくりに努めていきたいと思います。

近年、教員が本来の職務に専念できるよう、教員の事務負担軽減を図ることが求められています。共同実施を通じて教員が負担していた事務を事務職員が担うことは、学校教育の質の向上を図る上で重要なことだと思います。一方で事務職員の業務量は増大し、これまで以上に多忙化しています。過重な負担が体調面や精神面に影響しないよう、支援室で業務の効率化、組織化を一層図り協働体制が確立できるよう取り組む必要があります。



とは言っても、この2ヶ月は副室長としての役割を十分に果たせずにいます。4・5月は異動事務や諸手当認定、県定期監査対応に時間をとられ、周りを見る余裕がありませんでした。事務長をはじめ支援室の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。また、事務職員に必要な専門知識も他の皆さんに比べて不足しています。まだまだ勉強することがたくさんあります。

最後になりますが、事務長が掲げる支援室の基本方針と重点目標を理解し達成できるよう、鍋島支援室の基本方針のキーワードでもある「信頼・協力・連携」を胸に支援室の運営に取り組んでいきたいと思っています。



小城市

北部学校運営支援室長 大石 寿幸（小城中学校 事務長）

小城市北部学校運営支援室においては、小学校5校・中学校2校の計7校、9名の県費事務職員と7名の市費学校事務員（嘱託職員又は日々雇用職員）及び嘱託職員である学校図書館司書や学校用務員と共に様々な事務室の業務を行い、学校運営に携わっています。

小城市には、北部と南部の2つの学校運営支援室があり、月2回のペースで共同実施を行っています。また、小城市学校事務職員研究会という県費事務職員で構成する組織もあり、月1回の研修会を開催しています。この研究会と学校運営支援室との関係は表裏一体です。小城市全体の課題は学校運営支援室の課題でもあります。この課題を解決するため、実際に活動をする組織が学校運営支援室です。市全体の研修会は連絡調整の場であり、全員での意思決定の場となっています。学校運営支援室と研究会の絶妙な連携が、実際に課題を解決するための活動に繋がっています。

今年度の学校運営支援室最大の課題は、「市費学校事務員」の引き上げ問題です。小城市の学校では業務範囲が広く、事務室に係わっていないのは学籍事務と教科書事務ぐらいです。公費の予算規模も大きく、またPTA会計・校納金・給食費・施設開放なども担当しているため、学校や事務室にとって「市費学校事務員」は必要不可欠な存在です。この

引き上げ問題は、単に財政上の予算削減への対応や事務・業務の見直しなどといった問題ではなく、なぜ学校に事務職員がいるのか、事務室・事務職員は何をすべきなのかという根本の問題にまで係わってきます。「チーム学校」が叫ばれ、カリキュラムマネジメントと事務職員の役割が論議されている今、学校スタッフの一員として学校運営に参画するという事務職員の使命を後退させてはならないと考えます。この引き上げ問題の結果は、他の市町にも影響を及ぼすことでもありますので、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。



多久市

学校運営支援室長 塚本 直美（ 東部中学校 事務長 ）

多久市学校運営支援室は、市内の小中一貫教育3年目を迎える3つの一貫校の事務職員で構成されています。事務長配置校の東部校以外の中央校・西溪校には、多久市教委より事務室長の発令があり、市職（事務補、司書、業務員）も含めた小中一貫校の事務室としての機能を果たすことができるよう、小・中学校の事務職員が連携を取りながら仕事をしています。

支援室会議は月に1回開催し、多久市教育委員会との協議の時間も設定し、市教委担当者も交えての会議を行っています。同じメンバーで多久市事務研究会も組織されており、月1回の研修会では事務処理の効率化、資質向上を目指して研修を行っています。



学習環境整備のため、業務員との連携も充実させており、定例で月1回行われる連絡会には、市教育総務課の課長補佐と事務長も出席して学校の施設に関わる情報交換等を行い、その内容は支援室で情報共有しています。

市内全学校がコミュニティ・スクール導入に向けて動き出しており、支援室としても、果たすべき役割と方向性を検討するため、今年度は情報収集と研修を行っています。多久市は、新採や初めて多久市に赴任する教職員を対象に、教職員現地研修会があり、夏季休業中にスクールバスを利用して市内30カ所近くの寺や史跡など名所を丸1日かけて探訪します。土地勘がない者にとっては、校区や地域を知るのに大変いい機会となり、地域とともにある学校づくりを目指した多久市の取組の一つではないでしょうか。

また、教員の多忙化対策に関しては、事務室の多忙化にならないよう配慮しながら、昨年度より一歩進んだ校納金の事務室対応に取り組んでおり、将来の校納金システム導入を視野に入れた取組を始めています。

その他、小中一貫校運営支援のための各小中合同事務室での事務部経営案の作成や、施設適正管理マニュアル検討なども行い、室員全員が個々人の能力を生かしながら使命感をもって取り組んでいけるよう、また各学校の事務室が学校運営を支える組織となるために、市教委と連携しながら支援室が運営されています。



武雄地区

支援室だよりの紹介

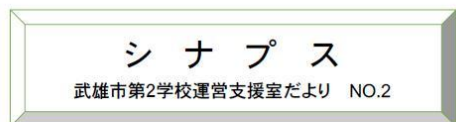
武雄市には、3つの学校運営支援室があり、第2支援室と第3支援室で支援室だよりをそれぞれ発行しています。今回は、第2支援室で発行されている支援室だよりを紹介します。

第2支援室では、平成26年度より支援室便りを約2ヶ月毎に発行し、職員へ支援室の活動報告や、事務室からの連絡や願いを分かりやすく情報提供するという取組をしています。管理職や職員からの評判も良く、支援室活動理解への効果を期待しています。また、支援室だよりの作成そのものが、学校事務職員としての研修となり、室員の資質向上に繋がっています。

タイトルの「シナプス」は、学校の先生方や保護者、あるいは外部の方々へ、私たち学校事務職員は、情報伝達の立場にいるという意味で付けられています。

今年度は、川登中学校が支援室だより作成の担当となっており、現在第2号まで発行しています。第1号では、室員紹介、定期監査報告、県市町村民税、児童手当について、第2号では、諸手当調査、備品購入、教職員互助会の事業の紹介について掲載しました。

今後は、年末調整、退職手当関係、服務（休暇の紹介）や旅費、次年度の予算要求などについて掲載をしていく予定です。



平成27年8月21日発行

<平成27年度 諸手当調査について>

今年度の武雄市第2学校運営支援室内では、認定額等はありませんでした。
扶養親族の状況や、住居手当における家賃額の変更などがあった場合は、速やかに事務職員にお知らせください。

<備品の購入について>

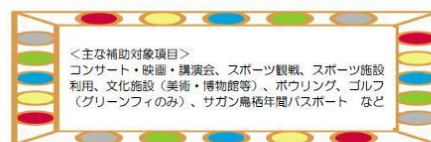
備品の一次購入が滞りなく終了しました。各担当の先生方は、備品のラベル貼りや番号の記入等のご協力をお願いいたします。購入した備品については、積極的にご利用ください。また、誰でもすぐに使えるように、決められた保管場所に置いておくようにしましょう。

<佐賀県教職員互助会の紹介>

夏休み中に旅行したり、映画館に行ったり、様々な所へ出かけられた方も多いと思います。教職員互助会では、給付事業を行っています。補助の対象に該当するかどうか確認してみてください！
詳しくは「教職員互助会のおしり」（今年度はピンク色の冊子）をご覧ください。各種補助の申請書が必要な方は事務室にお申し出ください。ほとんどが自己申告制になりますのでご注意ください。ここでは、簡単にいくつかの補助制度についてご紹介いたします。

旅費増進・芸術鑑賞補助

- ・対象者：会員のみ
- ・補助額：利用料金の半額（税金、入会金、諸費用を除く）
100円未満切り捨て
※年度総額10,000円を限度とする
- ・請求期限：利用日の翌月の末日



宿泊補助

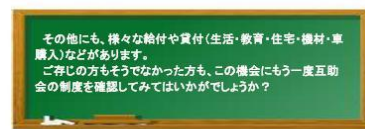
- ・対象者：会員及び会員の被扶養者（3歳以上）
- ・補助額：1人1泊2,000円（2,000円未満の場合は実費）
100円未満切り捨て
- ・泊数制限：会員・被扶養者を合わせて年度15泊
- ・利用方法（2通り）
①指定施設を利用する
②旅行会社のパック旅行を利用する



公務による利用は補助の対象になりません！
詳細は「平成27年度指定宿泊施設及び会員証による割引施設一覧」をご覧ください。

海外旅行補助

- ・対象者：会員のみ
- ・補助額：割引後の海外旅行代金（オプションツアーを除く）の10%
100円未満切り捨て
※1万円を限度とする。年度1回まで。



ぜひ読んでみたいという方は、武雄市第2学校運営支援室（中心校 御船が丘小学校）までお問い合わせください。

杵島地区

支援室だよりの紹介

白石町学校運営支援室では、隔月に広報「しろいし」を発行しております。先生方を対象に分かりやすく情報発信をしております。

同時にブログ形式で毎回共同実施の内容を載せておりますので、二重に確認が出来るようになっております。

ぜひアクセスしてください。



事務の良同家様より

しろいし 平成 27 年 5 月 28 日 第 43 号 白石町学校運営支援室

★平成 27 年度第 1 回「共同実施協議会」が開催されました★

転入した 5 名の学校事務職員を迎え、平成 27 年度「白石町学校事務共同実施」がスタートしました。去る 4 月 28 日（火）、江口教育長、小川課長以下教育委員会事務局、各校長、教頭会代表、各学校事務職員といった会員の出席のもと、第 1 回「白石町学校事務共同実施協議会」が開催されました。白武事務局長が今年度の運営目標及び実施計画案を説明し全員で協議しました。

今年度の運営目標の骨子は下記のとおりです。

- ・教育委員会と小中学校の連携を強化し、事務処理の効率化・均一化に取り組む
- ・教員の事務量軽減を目指し、学校運営に積極的に参画する
- ・正確な事務処理に迅速さを加え、スピード感のある業務遂行能力を養う。

人事異動により共同実施協議会会員 30 名のうち 12 名が新しくなったことを受け、佐賀県の学校事務職員制度の変遷や白石町共同実施のこれまでの取り組みの説明も白武事務局長が行いました。当共同実施は町内小中学校 11 校で構成しており、県内で最大の組織となっています。運営目標及び実施計画案に基づき活動を行っていくことを全員で確認しました。

今年度も「学校事務共同実施」の活動へのご協力をお願いします。

今年度のミニコーナーは…

【学校基本調査】ご存知ですか？

学校基本調査とは、毎年学校教育法に規定されるすべての学校、および市町村教育委員会を対象に、文部科学省が実施する統計調査です。5 月 1 日現在の学級数、児童数（小・中・高・短大など）、学部数（高等専門学校）、在学人数、養育児童数、教職員数、学校数等の数値、学校建物の面積、学校経費、卒業生の進路別数などが調査対象となっています。

★共同実施だよりの「しろいし」は Web でもご覧いただけます。
http://shiroishimublog17.fc2.com/
1 たくさんアクセスお待ちしております。

携帯でもご覧いただけます。
バーコードリーダー機能を使って読み込んで下さい。

白石町に赴任することになり申し込めたら赴任して感じたこと、とか、という内容でお伝えします。今年度、白石町内へ転入した事務職員 5 名より貴重なコメントと写真をいただきます！次番号より掲載予定ですので、ご期待ください。今年度も広報「しろいし」をよろしくお読みください！

★記録・広報部

ミニコーナーもあり、堅苦しくない内容で「ほっ」と出来るような構成を心掛けています。

藤津・鹿島地区

コミュニティ・スクール活動紹介

嬉野市では、平成 26 年度嬉野市内全小中学校がコミュニティ・スクールの指定を受け、市内全小中学校の事務職員も学校運営協議会委員として、学校運営協議会に参加することとなりました。また、同年度、文部科学省の指定を受け、「学校事務の共同実施」を通してのコミュニティ・スクール推進へのアプローチを研究しました。その研究における取組について紹介します。学校事務職員として、コミュニティ・スクールへの関わりを模索されている方の参考になれば幸いです。

【その 1】学校支援者のための『学校の用語集』作成

学校関係者では当然のように使用している言葉でも、一般の人々にはなじみがないものも多く存在するため、『学校の用語集』を作成しました。学校運営協議会委員を始め、学校を支援していただく多くの方々に配布して学校をより深く理解してもらおう手立てができたと感じています。学校関係者にも配布して、有効に活用できると好評です^^

今年度の第 36 回佐事研大会で購入いただいた皆様、ありがとうございました！

学校支援者のための

学校の用語集

（H27・2・19 第 1 版）

佐賀県・佐賀市・佐賀市にある学校づくりにコミュニティ・スクールの推進について
九州大学 総務課 佐賀県 総務課



【その2】『コミュニティ・スクール便り』での広報活動

毎年度、嬉野市共同実施の取組として、2か月に1回程度『うれしの事務だより』を発行しています。その事務だより「コミュニティ・スクール便り」というコーナーを設け、事務職員のCS活動報告を行いました。

うれしの事務だより／コミュニティ・スクール便り第7号

～コミュニティ・スクール看板の紹介～

H27.1.22（木）発行分より

市内小中学校ではコミュニティ・スクール(C・S)を紹介する看板が設置されているところがあり、来校された方に向けてC・Sになったことをアピールされています。今回は2校の看板を紹介します。

嬉野小学校



大野原小・中学校



事務職員も
学校運営協議会
委員として、
看板制作にも
関わりました！

おまけ★

知られざる？情報推進部の活動

佐事研大会終了後に回収するアンケートの入力作業は情報推進部が行っています。回収したアンケート用紙を部員で分けて、ネット上に入力するのです。情報推進部員で入力したものを佐事研事務局のWeb担当グループが集約して、佐事研HPにアップしています。

先日の全事研熊本大会・第2分科会アンケートも情報推進部で手分けして入力しました。膨大な量のアンケート入力は期限も短く大変でしたが、いろいろな意見や感想を誰よりも早く見ることができるのは、ちょっぴり面白くもありました。

新米の季節デスネ～♪



～編集後記～

今回の佐事研だよりはいかがでしたか？ご意見・ご要望等ございましたら、各地区の情報推進部員までお寄せください。「佐事研だより見たよ！」の一言が励みになります。

最後になりましたが、お忙しい中、執筆いただいた皆様ありがとうございました。
佐事研 情報推進部